

きげん良き 子の豆まきの きりもなや忠文	神戸市会議員 うらがみ忠文新聞	2015年 春の号
----------------------------	--------------------	--------------

頑張ってきました。

■ 思い出すのもつらく悲しい阪神淡路大震災から、20年がたちました。
 私がPTA会長を務めさせて頂いていた小学校でも、4人の児童が亡くなりました。
 ■ 「お別れ会」の後、教室に残っていた「小さな上履き」や「絵の道具」などが保護者の方々に返された校長室で、私は「神戸市会議員選挙に立候補する」と、決意しました。
 決意の内容は、この「うらがみ新聞」のウラ面のとおりであります。
 ■ 多くの皆さんのおかげで当選することが出来ました。それから、20年。
 「神戸空港の是非は住民投票で決めよう」の署名運動、「被災者支援法」の制定、「市民と市役所の協働と参画運動」などの先頭に立つことが出来ましたのは、市民の皆さまのご声援と、初当選直後に、高齢のご婦人から頂いたひとつの短歌のお陰であります。
 ■ 「公約の責務は重し 被災者の熱きまなざし 忘るるな君」
 今でも胸のポケットに入れてあります。怠けるわけにはいきません。
 「人がやさしい」笑顔あふれる「お互い様パワー」に満ちあふれた神戸のまちを築くために、市民がひとつになって、みんなで力を合わせて行こうではありませんか。

「この世に生まれたからには、人のお役に立ちたい！」と行動する人々で満ち溢れている社会を作るのが、政治の仕事です。

【私は、やります】

1、「市民と行政」が、がっぷり4つに組んで、地域の活力を引き出す。

・市職員は、もっと町に出て市民の話を良く聞くこと。

2、「神戸の元気」を創りだす。

・市役所は、民間と共に、とにかく「仕事を生み出す」ことに突進。
 ・「何歳になっても、身体が動く限り働きたい」と言われる高齢者の方が、40%おられます。高齢者の就労支援に全力。

3、「おせっかいな神戸」を取り戻す。

・昔と違って、困ったときに相談する人が、身近に見つからない時代になってきました。
 ・福祉は行政の最大の仕事です。生活の「悩み、苦しみ」に力強く応える市役所に！

ただふみ うらがみ忠文

- ・1969年 慶應義塾大学法学部政治学科卒
- ・元、大丸神戸店「くじやく通信」編集長
- ・元、神戸市立御影北小学校 PTA 会長
- ・NPO 法人 障がい者就労支援作業所理事
- ・1995年 神戸市会議員初当選
- ・2011年 神戸市会議員5選
- ・無所属。所属会派「住民投票☆市民力」団長

毎日毎日、ブログで語りかけています。
 うらがみ忠文 で、
 検索くださいませ。



JR 住吉駅山側・シーア玄関前。みなと銀行住吉支店東隣り。お気軽に！

●「うらがみ忠文ネットワーク」談話室。

〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町1-7-3 矢野ビル3F

TEL/FAX 078-841-1042 ・Eメール tadafumi@uragami.jp

地震が、すべてを変えました。

変えましょう、神戸市政も。

■ あの震災直後の、たくさんの市民が、家族を、家を、職場を失って、悲しみや苦しさにうちひしがれている時に、神戸市長は「神戸空港建設の方針は変えませんが、六甲山洞穴音楽ホールもつくりまします」と、発表しました。東灘区の森南地区をはじめ、市民の大切なまちづくりの基本となる「復興緊急条例」を議題とする市会本会議は、たったの一日でした。いったい何を議論したのでしょうか。

■ 人間でも政治でも「いざ」という危急のときに、その本当の姿が現われるものです。いまの神戸市政には、これだけの大地震にあつたにもかかわらず、あつたがいきがなく、住民参加も口先だけで、市議会も責任を果してないことが、はっきり現われました。

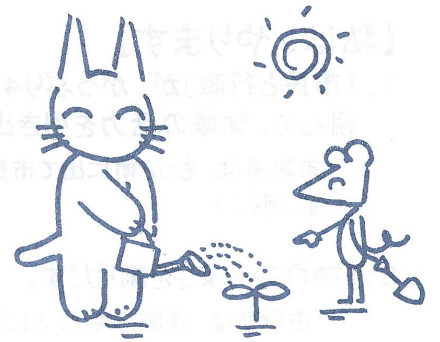
■ 神戸の復興は、早く、もとの日常を取り戻すとともに、みんなが住みよい生活空間をつくりあげることが目的です。生活空間をつくるということは、自然への感謝がスタートだと思ひます。山や海におじぎをして「すみませんが、また、ここに住まわせていただいでよろしいでしょうか」という気持ちを抱くことが、復興の始まりではないでしょうか。

■ もうこれ以上、六甲山を痛めたり海を汚さないで、住みよく美しい神戸のまちを、みんなでお考えあいながら、新しい価値感でつくりだしていかうてはありませんか。

★ 大震災から立ち上る、今こそ、子どもからお年寄りまで、みんなが誇りのもてる神戸市政を。

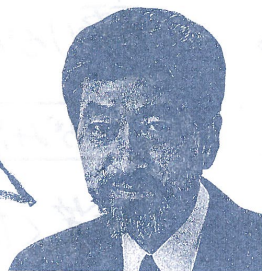
★ 復興を通じて、本物の住民参加、まちづくりのモデルケースを、神戸から。

さまざまな分野の人の知恵と力をいっしょに結ばば何か芽生える、何か生まれる。



- 誰にでも判断ができるよう、やろうとしていることの、「情報」を、オープンに。
- ものごとを決めていくプロセスを、透明に。
- 住民と共に悩みながら考え、常に複数以上の提案があり、住民の実質的な参加があること。
- そのようにして「人がやさしい」笑顔あふれる神戸に。

こちらの面は、今から20年前、平成7年、1995年3月。神戸市会議員選挙に立候補を決意した頃、東灘区で配布していたチラシを、その当時のままに印刷したものであります。



ただふみ
うらがみ忠文
昭和44年、慶応大学法学部政治学科卒。
会社員、情報誌編集長。
神戸旧居留地連絡協議会広報委員。
ふるさと町なみ保存ボランティア。
前・御影北小学校PTA会長。

■ ご意見をお寄せください。また、うらがみネットワークにもご参加ください。
うらがみ忠文ネットワーク事務所 〒658 神戸市東灘区鴨子ヶ原 1-2-7
TEL / FAX (078) 841-3990